

平成 22 年 10 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社ゴトー
 代表者名 代表取締役社長 後藤行宏
 (JASDAQ・コード9817)
 問合せ先
 役職・氏名 常務取締役管理本部長 土橋文彦
 電 話 055-923-5100

平成 23 年 2 月期業績予想及び期末配当予想の修正、
 並びに特別損益の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 7 月 9 日付け当社「平成 23 年 2 月期第 1 四半期決算短信（非連結）」にて公表いたしました業績予想、並びに平成 22 年 8 月 25 日付「平成 23 年 2 月期第 2 四半期末配当予想の修正に関するお知らせ」において発表いたしました期末配当予想を下記のとおり修正いたしますとともに、平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間において後述のとおり特別損益を計上いたしますことについてお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 2 月期 業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期（累計）（平成 22 年 3 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	5,625	△3	97	△87	円 銭 △9.47
今回修正 (B)	5,359	△60	48	15	1.63
増減額 (B-A)	△266	△57	△49	102	—
増 減 率 (%)	△4.7	—	△50.5	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 2 月期第 2 四半期)	6,250	1	115	△156	△16.98

(2) 修正理由

当第 2 四半期累計期間におきましては、国内の景気回復のペースが鈍化している中、経済環境の急変と先行き不透明感、デフレの長期化により消費者心理が冷え込んだことから、小売業界におきましても、大

変厳しい経営環境となりました。

当社では、売上高に関しまして、TSUTAYA事業では、映像レンタル価格の引き下げによる単価下落、またCD・DVD販売及びゲーム販売の取扱店舗減少などにより、当初見込額を62百万円下回るものと見込んでおります。

BOOK OFF事業に関しましては、中古ゲームは取扱店舗の増加により売上が伸びたものの、本、CD・DVDが低調となり、当初見込額を65百万円下回るものと見込んでおります。

ゲーム事業に関しましては、新作ゲームソフトのタイトル不足、客数の減少などから新品、中古ともにソフト・ハードいずれも低調に推移し、当初見込額を125百万円下回るものと見込んでおります。

ファッション事業は、消費の冷え込みと天候不順により、当初見込み額を12百万円下回るものと見込んでおります。

損益面につきましては、売上高の減少に伴い経費節減に努め、販売費及び一般管理費の圧縮による利益の確保に注力いたしましたが、売上高減少に伴う利益の減少を補うことが出来ず、営業利益は当初見込額より57百万円少ない営業損失60百万円、経常利益は49百万円少ない48百万円と、当初見込額を下回るものと見込んでおります。

四半期純利益に関しましては、特別損失が60百万円となる見通しとなったこと、また投資有価証券売却益の計上により特別利益が37百万円となる見通しであることから、102百万円増加の15百万円（前年同期比171百万円増加）と見込んでおります。

(3) 通 期（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	11,214	66	281	24	円 銭 2. 70
今回修正（B）	10,669	△14	198	15	1. 63
増減額（B－A）	△545	△80	△83	△9	—
増 減 率（%）	△4. 8	—	△29. 5	△37. 5	—
（ご参考）前期実績 （平成 22 年 2 月 期）	12,401	2	230	△264	△28. 68

(4) 修正理由

通期の業績につきましては、景気回復への先行きに不透明感が強く残っていることから、当社事業を取り巻く経済環境も依然として厳しい状況が続くものと思われま。このような環境下、当社では第2四半期累計期間の業績見込みを踏まえ、当初の前提条件を見直した結果、通期業績予想を上記のとおり修正いたします。

売上高に関しましては、BOOK OFF事業は堅調に推移すると思われまが、TSUTAYA事業、ゲーム事業は、ともに第2四半期累計期間までと同様の厳しい状況で推移するものと予想しており、通期売上高は、当初予想より4.8%減の10,669百万円を見込んでおります。

損益面に関しましては、効率的な人員配置を始めとして販売費及び一般管理費の削減に注力し、営業利益の増額につなげたいと考えております。また、営業外損益では当初見込額とほぼ同額を見込んでおりますが、営業利益の減少80百万円の挽回ができず、経常利益につきましては、当初見込額を83百万円下回る198百万円（前年同期比32百万円減少）、当期純利益は9百万円下回る15百万円（前年同期比279百万円増加）と見込んでおります。

2. 配当予想修正

(1) 修正内容

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
前回予想 （平成22年8月25日発表）	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 未定	円 銭 未定
今回修正予想	—	0.00	—	3.00	3.00
当期実績	—	0.00	—	—	—
前期（平成22年2月期）実績	—	0.00	—	0.00	0.00

(2) 修正理由

当社の利益剰余金の配当に関しましては、安定的な経営基盤の確保と収益の拡大に努め、株主の皆様には安定的な配当の継続を実績に応じて行うことを基本としております。

当事業年度の期末配当につきましては、平成22年7月から行った仕入金額の見直し及び仕入精度の向上等ビジネス運営の仕組み変更の効果測定が難しかったことから、未定としておりました。

上記配当に関する基本方針、および「1. 平成23年2月期 業績予想の修正等」のとおり、前回見込みました経常利益額には届かないものの、198百万円の経常利益を確保できる見通しとなったことを勘案し、期末配当予想を未定から3円へと修正いたします。

3. 特別損益の発生およびその内容

当社第2四半期累計期間におきましては、特別利益として投資有価証券売却益37百万円を計上し、特別損失として転貸店舗（当社が地主との賃貸借契約に基づき、転貸している店舗）の契約満了に伴う原状回復費用が見込みより嵩んだことにより14百万円、及び競合店出店に伴う損益の悪化から該店舗の減損損失45百万円を計上することといたしました。

(注意事項)

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。